

寝て起きたら

妹の搾精奴隷

に墮とされた。

搾り取られ専門サークル

drain



目が覚めたら、ちつ下の妹と同じ学年になっていた。何を言ってるのか分からないと思うが、僕もまだ腑に落ちていない。

どうやら僕は事故で植物人間になったらしい。それも4年半も眠り続けていた。

当然学校も留年し続けていて……

結果、目が覚めたら妹と同じ学年。

正直恥ずかしかった。

というのも、**妹は子供** という意識が僕にはあったからだ。

しかしベッドの上で眠り続けた僕の体は、すっかり衰えて、華奢になっていた。

一方、妹は現役バリバリのバレーボール部キャプテン。体格では圧倒的に妹が優位だった。

勉強は？

勝てるはずもない。

僕は授業を聞いても、何を説明されているのか全く理解できなかった。

だって、4年半も寝ていたんだから。

一方、妹は学年で常にトップ3に入る秀才。

完全に……

完全に、僕と妹は立場が逆転していた。

事情を知らない人からは、

姉と弟と本気で思われている。

そして、最も恐れていた事態が起こった。
両親からの進言。

「翔太、美味にお勉強教わったら？
あと体も鍛えてもらいなさい」

正直言って、いつか来るとは思っていた。
だって両親の教育方針は、
「完全実力主義」
なのだから。

実力の無い僕は妹に勉強を教わり、
体も鍛えてもらわないといけない。
妹は両親の言葉を受けて、
僕にこう言った。

「お兄ちゃん。まずは体を鍛えよっか。
背筋力を鍛えようね。
裸になってブリッジしてよ。
アタシがお兄ちゃんの顔に座って、
負荷をかけるから
良いよって言うまでしっかりキープね」

「お見ちゃん、病院生活長かったから
千ノ毛まで剃られてたんだね。
ツルツルじゃん(笑)。
うん、良いと思うよ。
子供みたいで(笑)」



「あれあれあれ？どうしたのかな？
お見ちゃん。背中が落ちて来てるよ。
落ちないようにお千〇ポ握ってあげるね♪
背中が付いたらお仕置きだよ。
お勉強中ずいっとお尻叩きの罰っ！
嫌でしょう？
妹にお尻叩かれながら、勉強教わるの。クスクス」

「あーあー。また背中が落ちてきた。しょうが無い。ガリツツのゴツを教えてあげる。腰を上突き出しなさい。そうすれば自然と背中が浮くから。アタシの手のお尻にお尻の穴を突っ込む感覚よ。ほら！もっと腰を突き上げるっ！」



男の子の腰振る姿って
本当に可愛い♡♡♡
だあー♡♡好き♡♡♡

「そうそう。やれば出来るじゃない。お尻の穴で感じるでしょう？アタシの手体温。指の窪みが最高に気持ちいいでしょう？お尻の穴ももっと突っ込んでほしいでしょう？腰を突き上げていればもっと感じるよ。手の輪っかの中で射精したいよね？」

「やだ。もう逝ったの？精液漏れてきてるよ。
すっごい。まだまだ出てくるうー♪
止まらな〜い♪♪♪
もしかしてお兄ちゃん、ガツツリ溜まってるの？
ああ、そのか。4年半も〜無沙汰だもんね(笑)」



もうおちちもった
もっと出るよねっ。
もっとおちちもった
もっと出るよねっ。
た〜んぱんぱん

「ほらほらっ！
背中が落ちてきたわよ！腰もっ！
もっとおちち〇お突っ込んで！
カカリを指の窪みに擦りつけなさいっ！
精液がジュクジュクのローションみたいで、
気持ちいいでしょ？
……そうそう。そうやって腰を突き上げるっ！」

「マ〇コ舐めはどうしたの？
言っておくけど、アタシを遊かさない限り、
パリッとは何時間でも続けさせるわよ。
だってそうでしょ？
運動しながらのパロティン補給が一番効果的だもの」



お兄ちゃん♡
お兄ちゃん♡
お兄ちゃん♡
お兄ちゃん♡
お兄ちゃん♡
お兄ちゃん♡
お兄ちゃん♡
お兄ちゃん♡
お兄ちゃん♡
お兄ちゃん♡
お兄ちゃん♡
お兄ちゃん♡

「やだ、何腰振ってんの？
ピストン運動のつもり？
そういう普通のセックスの練習は、
お兄ちゃんには早いんじゃないかなあ？
クスクス。
それとも何かかな？
気持ち良くなれば、
妹の手の中でも何でも良いのかなあ？
クスクス」

「あ、もしかして腰を動かせば、自然と舌も動くって思ってるの？
その考えは浅はかだよ♪
だって女の人を遊かせるのに、そんな単調なサービスじゃ意味ないんだよ？
童貞のお見ちゃんじゃ分かんないかなあ〜(笑)」



もっとなんて
もっとなんて
もっとなんて
頑張れば出るよなあ。

「お！腰が激しくピストンしてきたね。
うんうん♪その調子その調子♪
はい。2回目の射精頂きましたあ〜(笑)。
早いねえ？。情けないね？。
たくさん出たね？。でもアタシは不満だな？。
もっとなんて？
あっ……あっ……」

2回目の射精で僕は背中が床についてしまった。
体中の筋肉がガシガシいってる。

妹は黙ったまま自室に帰ってすぐに戻って来た。
僕の大好きな…裸エプロン姿に着替えて…。



「よく頑張ったね。
ご褒美にミルク飲もっか♡
はい。キューキューしてっらん。
おっほいミルクをたくさん飲んで、
男の子らしい体になろうね♡♡」

「頑張ったから、頭十ヲ十ヲしてあげる。
いい子いい子♡
ほら、もっと強く吸って。甘飲みじゃなくていいよ。
あ、またオチの千シん大きくなってきたね♪
もう少し搾ろっかゆゆ♪」

ぶしゅっ♡

ちゅっ

ドク
ドク

お尻お尻♡
お尻お尻♡





「これからお兄ちゃんは、アタとのおっぱいミルクで
体を鍛えるんだよ。
お兄ちゃんの筋肉は全てアタとのおっぱいミルクで
出来ていくの。素敵でしょう？」

ちゅっ

ジュジュ

ジュジュ

ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ



「嫌いやないよね？
だってオチのチンは拒否してないもの。
おのほい吸うのも、少し上手になってきてるよ
頑張ったら、褒美があるって素敵でしょ？
お勉強も頑張るうね？」

♡

つくすっ。
今、お勉強のこと考えたでしょ。
オチのチンが少し硬くなったよ？
厳しくされる方が、崩えるのかな？
もしかしてお見ちゃんってPMさんなのかな？

くちさっ

くちさっ

くちさっ

ちゅっ
V-V

お見ちゃん

お見ちゃん

「ああ、そんなに怯えなくても平気よ。
誰にも言わないであげるから。
それに、男の人は皆マゾいだよ。
そんなことでお兄ちゃんを嫌いになったりしないよ。
だからたくさん射精してね」



「あ、また出た。
安心したのかな？
安心すると射精しちゃうなんて、
やっぱり男の子なんだね。
よしよし♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡」

「あ、また出た。
安心したのかな？
安心すると射精しちゃうなんて、
やっぱり男の子なんだね。
よしよし♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡」

ドクドクドク
ドクドクドク

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

こうして僕と妹の筋トレは終わった。
妹曰く、

「お兄ちゃんの体力だと、
筋トレは3日に1回が限界。
それ以上は、体を壊すからダメ」

とのこと。

僕は毎日筋トレをしたい衝動を抱えながら
毎晩モンモンとしている。

ちなみに今の僕には、
絶対オナニー禁止令^ニが出ている。
理由を聞くと…

「精液は妹が搾り取るものであって、
自分で擦って出すものではないから…」

だそうなんだ。

納得出来ないけど、逆らう体力もなかったの
で僕は言われた通りにしている。

「あ、そうそう。」

筋トレの無い日はお勉強みてあげるね。

お兄ちゃん レ

そういうわけで、今日は勉強の日。

「じゃあ、早速だけど高いの英語やってみて。
終わるまでずいっとお尻叩きが続くよ？
間違えたらお尻叩きを更に追加ね。
お尻をお猿さんみたいにする赤にしようね。」

パッパッ！

「大丈夫のすぐ終わるよ！
お兄ちゃんは高うだし、
実年齢は23歳なんだから、簡単でしょ？
出来なかつたら、恥ずかしいよ？
だってコレ、基本中の基本だもん。」

体験版はここまでです。
残りは本編で楽しみください。